すてき銭湯ばなし 花の湯 その１

東急多摩川線　沼部駅

花の湯さん　ところどころ　パート１

鯉が泳ぐ流れのほとり　煙突は立つ

　東急多摩川線沼部駅を降りて右へ歩いて間もなく、通りに面して花の湯さんがあります。ご主人の石川幸紀（ゆきのり）さんがお話を聞かせてくださいました。猛暑の日なのに、約束の時間に玄関前で待っていてくださいました。

「この辺はお風呂屋さんだらけだったんですよ、昔は。歩いて５分も行かないうちにお風呂屋さんにぶつかってたの。お風呂屋がいっぱいあるから、全部一斉に休業ってことはないから。どっか開いてるからね。」
「八百屋の隣りが八百屋ってことも珍しくなかったよね。意外と繁盛するんですよ。商売敵ではあるわけだけども、お互いに一緒にやっていこうってかたちになりますからね。」

「昔はキッチンでも便所でも、「共同」っていう言葉が使われてね。アパートには普通、お風呂はなかったですね。この辺もそういうアパートいっぱいあったんですよ。」
「今のお客さんは、うちに風呂あるけど、うちのちっちゃいお風呂よか、でっかいお風呂はいったほうがいいっていうんでね。つまり、毎日じゃなくていいから、週に１回でも２回でもお風呂屋へ来たいとか。それがなかったらおれ、生きてンのやだよ、って人とか（笑）。日本の文化として入浴ってものがね、あるよね。」

「じゃあ、案内しましょうか。番台。 今はフロントになったけど。これくらいで広いほうだと思うよ。こっち（向かって右）が女湯でこっち（左）が男湯。反対のところもあるよね。」

「この広告？これはね、昔はタイル画を新しくするときに費用を出してくれる代わりに、広告を出すっていうしくみがあってね、そのときの広告。今はそういうシステムがなくなっちゃったけど、そのままにしてあるの。」

「昔はおやじもおふくろもいたし、兄弟もいたし、女中さんもいたし番頭さんもいたしね。番頭さんて方は昔は必ずいました、お風呂屋さんには。」

「番頭さんの仕事ってのは、あすこ（家の裏手）の廃材を、燃やすように作る、それで、釜掃除から・・朝から晩までほとんど働きづめですよ。釜場の上に必ず番頭さんの部屋があったの。火の用心が一番大事ですからね。三助（さんすけ）さん？三助さんはまた別ですね。ぼくが子どものころにはまだいましたよ。背中洗ってやるとかね。」

←釜場から外を見たところ。
歴代何人もの番頭さんたちがこの景色を見てきたのです。

「女中さんはね、昔はもう赤ん坊がいっぱい来てたのよね。今もそこ（脱衣場）に飾りみたいにして寝台がありますけども、そこで赤ん坊の世話をしてたの。そういう人たちがいなくなったの？いつ頃って言われてもねえ。もうけっこうたちますね。うーん、５０年代ぐらいまでいたんじゃない？」

「昔だったら１０年ぐらいたつとだいたい中普請ていって工事やってたんですよ。その頃は十分に、資金的にもね。お客さんも多かったし。１か月休んで２か月休んでって、やってたんだけど、最近はね。まず新築がないもんね。新しく店舗ができましたなんていうのはないからね。

「いい仕事だから、儲かるから、っていうふうに子どもに勧められないってのがちょっとやっぱりね。われわれは小さいころから身体動かして働くの苦じゃないけどね。今の人から見ると、自分の自由な時間がほしいとか、あるいは休みがほしいとか・・。」

「前はうちも寺院みたいな建物で、それを立て替えたのが昭和６０年近く。営業時間も建て替え前は、日曜日は朝８時からやってたりとかね。

「中のつくりは（建て替え前と）ほとんど変わってません。脱衣場があって浴室があってね。こういうの（フロント）はなかったんですけどね、昔は当然番台ですから。あれはお客さんの安全を監視するって意味で。だから洗い場と脱衣場の仕切りも曇りガラスじゃなくて素ガラスになってますよね。見えるようにわざわざ素ガラスになってるんですよね。中で何があるかわかんないからね。お客さんがいっぱいいるときはいいけど、すいてるときなんか、こっちにいる人はあっちの人がどうなってるか（お客さん同士では）わかんないからね。足が悪い方とか、高齢の方とかいらっしゃるととくにね。」

～その２につづく～

＊石川さんより「古いことなので記憶違いがあるかもしれません。」
（聞き書き・大田区民の会　嶋峰みゆき）

花の湯さん　ところどころ　パート２

脱衣場の天井に日本画のような美しい花の絵が描かれています。でもご主人はいたってクール・・「天井？なんだか知らないけどおやじがだれかに注文したんじゃないかな。きれい？そーお？」

つやつやの木でできたサウナの室内。「サウナは釘が全然出てないんだよ。熱くなるから。」

ここが釜場。狭い？
こんなもんだよ。
この穴の周りにしか
お湯がはいらないんだ。
下が燃料を燃やすところ。
深いでしょ。

図書館のある公園のお隣が花の湯さん
湯上りには、鯉たちが泳ぐ水辺で夕涼みもよさそう。